

平成29年度博物館施設評価集計シート（年度末）

施設名 嵐山史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	54,250	人	達成	参考値(H28実績)	
				65,729	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	12,850	人	未達	参考値(H25～27実績平均)	
				11,810	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	100	件	達成	参考値(H25～27実績平均)	
				104	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	2,090,000	円	未達	H29予算計上額（観覧料571,540円+その他811,100円）	
				1,636,090	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	企画展	入館者	企画展の入場者数	8,900	人	達成	参考値(H24・26・27実績平均)	
				13,844	人			
2	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用件数	45	件	未達	参考値(H24・25・27実績平均)	
				43	件			
3	ボランティア	ボランティア活動	活動参加延べ人数	680	人	達成	参考値(H24・27・28実績平均)	
				681	人			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	1,709	点	達成	点検対象点数(歴史資料540、考古資料1,169)	
				1,709	点			
5	利用状況	情報提供サービス	年間HPアクセス件数	88,040	件	達成	参考値(H27・28実績平均)	
				115,421	件			
6	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	達成		
				85	%			
7	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講生の満足度	80	%	達成		
				95	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>○重点事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「武蔵武士とその本拠」(12/2～2/18) ・歴史講座「武蔵の鎌倉御家人」(9/15、9/29、10/27、12/15) ・シンポジウム「武蔵武士とその本拠」(1/27・28) <p>○新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度文化庁 地域の核となる美術館・博物館歴史博物館支援事業として「『躍動する武蔵武士』を今に活かす地域連携プロジェクト事業」を実施 ・歴史と民俗の博物館と共催で、同館特別展関連事業「第60回埼玉県名刀展 上杉景勝の生きた時代の刀」を実施
事業の実施状況と過程	<p>○重点事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「武蔵武士とその本拠」(12/2～2/18)観覧者数 13,844人 ・歴史講座:全4回実施済(受講者数 第1回298名、第2回265名、第3回254名、第4回315名) ・シンポジウム:1月27・28日実施。参加者数1178名(両日のべ) <p>○新たな取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁支援事業:他の6団体と連携して実行委員会を組織し、当館が中核館として実施 当館事業 <ul style="list-style-type: none"> ◆講演会「武蔵武士の本拠と本領」(12/23) 参加者数 326名 ◆バスツアー「武蔵武士の本拠を訪ねる」(2/9) 参加者 29名 ※上記の当館企画展、シンポジウムもこれに含まれる 連携事業 <ul style="list-style-type: none"> ◆「本庄早稲田の森地域連携展覧会2017」(8/30～9/30)〈児玉地区文化財保護行政担当者会〉 観覧者数 885名 ◆「比企歴史の丘巡回文化財展 比企のタイムカプセル17」(当館8/22～9/24、12/3まで9会場巡回)〈比企地区文化財振興協議会〉 観覧者数 4816名 ◆資料展「中世社会と女性たち」(10/7～11/23)〈県立熊谷図書館〉 観覧者数 134名 ◆同「武蔵武士とその時代」(11/25～1/25)〈同上〉 観覧者数 255名 ◆文化講座「中世東国社会と女性たち」(11/4)〈同上〉 参加者数 49名 <p>・歴史と民俗の博物館共催事業:「第60回埼玉県名刀展 上杉景勝の生きた時代の刀」(11/3～11/26)観覧者数 2446名</p>
事業の成果	<p>・年間の活動テーマを「武蔵武士とその本拠」と定め、企画展、歴史講座、シンポジウム、文化財めぐり等を実施した。このことにより、相乗効果が生まれ、利用者増につながった。また、アンケートによる満足度も目標値を超えることができた。</p> <p>・文化庁支援事業、名刀展の実施の際、県立他博物館はもとより、県立図書館、県内の大学、比企地区市町村、地域の文化団体と連携し事業を行った。このことにより、単館で行うよりも、事業内容が充実し、また広報手段が広がったことから、企画展開催時の入館者増につながったと考えられる。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	6人 (4人)	総予算額 (人件費を除く)	13,278,000円	職員一人あたりの県民人口	121.6万人
収蔵資料総点数 (H29.3末現在)	1,709点	事業経費 (上記の内数)	9,073,000円	利用者一人あたりのコスト (平成28年度)	254円
平成28年度 収集資料点数	0点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	2,090,000円 (781,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成28年度)	0.74%

(注)平成29年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,294,490人である

平成29年度 博物館施設 総合評価

施設名 嵐山史跡の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	3	1	0
各館独自	数値目標による評価	6	1	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	79	1	0
各館独自	チェックリストによる評価	20	0	0

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> 数値目標については、共通項目で4件中、目標達成3件、未達1件(4「経営努力」)。独自項目では7件中6件で目標達成、未達1件(2「団体利用」)。 今年度は、文化庁による国庫補助事業として、他の6機関と連携して「『躍動する武蔵武士』を今に活かす地域連携プロジェクト」事業を実施した。また歴史と民俗の博物館と共催で「第60回埼玉県名刀展」を開催し、今年度は他機関との連携事業で進展を見た。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 常設展観覧者数は、上半期は例年並だったが、下半期は企画展開催の関係から常設展期間が1か月短かったこともあり、やや伸び悩んだ。 中世を対象とするという本館の性格から、企画展はこのところ中世前期と後期を交互に対象としてテーマ設定している。対象時期によって入館者数に大きな差が生じることから、テーマ設定をどう工夫するかが課題となっている。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示において、スマートフォンアプリを活用した多言語による展示ガイドを制作し、3月から運用開始した。 企画展示終了後の2月下旬に、常設展示に復旧する際、スポット展示コーナーの展示を更新した。 学校団体利用が減少していることから、比企地区をはじめとする博物館周辺市町村小学校に、体験学習の受け入れについて広報する。 これらの情報を含めた効果的広報により、常設展の魅力アップをアピールし、観覧者・利用者の増加につなげたい。 29年度制作のガイドアプリを活用し、館跡の解説の多言語化を行う。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<p>・(さきたまと嵐山で)2館相互に同じ企画展はできないか。</p>
--------------	-------------------------------------

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	<p>1、全館共通評価項目チェックリスト80のうち、79がA評価であり、博物館としての諸使命を十分に果たしているといえる。</p> <p>2、常設展観覧者と学校団体の博物館利用については、前年度よりわずかに減少しているが、単年度で評価するには早計であり、本館の示す「対応の方向」は妥当な対応だと考える。「経営努力」の数値についても、本館の活動方針などをふまえ、単年度ではなく中長期的な評価が必要であろう。</p> <p>3、「調査研究活動」については、文化庁支援事業として、企画展「武蔵武士とその本拠」、歴史講座「武蔵の鎌倉御家人」、シンポジウム「武蔵武士とその本拠」、講演会、バスツアーなどを実施したことが特に高く評価される。年間の活動テーマを「武蔵武士とその本拠」と定め、一貫した事業実施を行ったことが利用者増、満足度の向上につながったといえる。</p> <p>4、魅力ある年間活動テーマを毎年設定していくことは大変と思われるが、平成29年度の成果をもとに、平成30年度の活動展開を期待します。</p> <p>5、平成29年4月に菅谷館跡が杉山城跡とともに続日本100名城に認定された。このことにより、各城の歴史や構造のほか、相互の位置関係互関連について情報を発信する重要性が高まったと思われる。城郭構造を示す立体模型や分布地図などを、すぐには作成できなくても、何か年計画での対応ができれば望ましいと思われる。</p>
----------	---

2. 全館共通項目チェックリスト

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか		
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか		
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか		
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか		
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか		
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか		
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか		
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか		
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか		
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	要項副本を職員へ配布
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	専門職員等から最新情報
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	収蔵庫設置
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	IPM実施(1回/2ヵ月)
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布(9月)
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定、記録
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	年1回確認
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	IPM実施時に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	資料修復計画の策定
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	資料目録(エクセルフォーマット)
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	WEB公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	活用点数 68点
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数 6点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数 22点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	WEB公開中
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵資料公開ページ
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	空調・露光・設置・観覧車との接触等に配慮
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	情報量、文字サイズの適正化、アイコンの活用
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	受付1名、土日・祝日の警備員配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館・閉館時の巡回点検
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	見学のしおりを更新・常備
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	館跡解説資料
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	来館者の要望により実施
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケート実施
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話、往復ハガキ
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	歴史講座、体験教室、文化財めぐり等
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置

項目	チェック内容	評価(A～C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	サポーターの配置
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケートの実施
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの集計・分析
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	資料閲覧コーナー
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	希望に応じてインターンシップ受入れ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	体験学習・館跡ガイド等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要項
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	ボランティア定例会、研修会
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP等で活動紹介
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	各種講座等に参加
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	スリーデーマーチ、嵐山時代まつり
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館報等で明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	A	既定予算で対応
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	学芸員研修体系による
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修への参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	適宜実施
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	シンポジウム開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座等の開催
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	市町村講座等に講師派遣
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	予算要求資料の作成
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	テグス留め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル作成
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	防災点検、防災訓練実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	A	休憩コーナー
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車椅子

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設整備点検実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	A	手すり、スロープ、点字ブロック等の設置
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	配色や文字サイズに配慮
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	トイレ等誘導サインの英文化
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏季開館時間の延長
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	外トイレ、大型バス駐車場の整備
施設の利活	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	利用案内、危機管理マニュアル
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HP等で情報公開
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講座室
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	体験ホール、芝生広場等
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	ロビー展の開催
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	年間共通観覧券、JAF優待サービスの導入

3. 館別独自項目チェックリスト

嵐山史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗している問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
企画展事業の実施	①	調査研究の成果を反映した展示となっているか	A	武蔵武士の本拠を紹介する内容
	②	メディアへの情報提供など広報活動は十分行っているか	A	県・市町村広報誌、新聞、雑誌、HPでの広報
	③	展示図録を作成し、一般に頒布しているか	A	企画展図録を頒布
	④	展示に関連した講演会等が実施されているか	A	歴史講座、企画展講演会
	⑤	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	A	アンケート実施
	⑥	外部団体の協力を得た展示となっているか	A	関連寺院や機関の協力
市町村等との連携事業	①	市町村等に対して連携事業の実施を働きかけているか	A	比企・児玉地区市町村文化財担当と連携して事業実行委員会を組織
	②	市町村との連携事業を実施しているか	A	文化庁補助事業を、比企・児玉地区文化財担当と連携・協力して実施
	③	市町村以外の団体との連携事業を実施しているか	A	彩の国・文化の森連絡協議会との連携
	④	地域の博物館等と連携して利用促進を図っているか	A	埼玉連西部地域館との連携
	⑤	地域の文化財活用事業に協力しているか	A	嵐山時代まつりへの協力
史跡の保存・活用	①	菅谷館跡の保存に努力しているか	A	館跡の定期的巡回、日常管理の実施
	②	菅谷館跡のガイダンスに努めているか	A	館跡ガイドツアーの実施
	③	菅谷館跡が地域に有効利用されているか	A	スリデーマーチ、嵐山時代まつり
	④	菅谷館跡の史跡としての価値を県民にPRしているか	A	立体模型や比企除館跡群の紹介展示、ガイドツアーの実施
各種事業の実施	①	歴史講座等の事業の企画について工夫しているか	A	初心者向けの講座の開催
	②	シンポジウムなど話題性のある講座・講演会の開催に努めているか	A	歴史講座、シンポジウムの開催
	③	菅谷館跡の活用を促進する事業を実施しているか	A	館跡ガイドツアーの実施
	④	県内各地の史跡を探訪する事業を実施しているか	A	文化財めぐりの実施
	⑤	事業の更新について県民ニーズを把握しているか	A	事業参加者アンケートの実施